

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372000980		
法人名	医療法人社団誠淳会		
事業所名	グループホーム青葉の家(1号館)		
所在地	愛知県豊橋市嵩山町字松田55番地		
自己評価作成日	平成28年8月17日	評価結果市町村受理日	平成28年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2372000980-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成28年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みどりの中で家庭的な生活」を理念に自宅でもなく大規模の施設や病院でもない家庭的な環境の中で、ゆったりとした生活、そしてなんらかの役割を持ちながら楽しく暮らしていける「第2の住まい」を目指しています。
 自然に囲まれ恵まれた環境の中で四季を感じて頂けるよう季節の行事に力を入れて取り組んでいます。また地域の方とコミュニケーションが図れるように小学校や保育園との行事に参加し地域との、繋がりを大切にしています。
 家庭的な雰囲気の中で活気のある生活を安心安全に過ごして頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本坂峠のトンネルを越えると県境で、トンネルの入り口が望まれる緑に囲まれた静かな山間に、3階建ての事業所が位置している。法人のケアセンターが敷地内にあり、小川のせせらぎや四季折々の草木を愛で、鳥の声を聴きながら散歩を楽しめる環境に恵まれている。小規模な保育園や小中学校が近くにあり、運動会や夕涼み会などの行事を通して、この地域ならではのほのぼのとした交流が続いている。「緑の中で家庭的な生活」を理念とし、家庭的な雰囲気の中で、自分の役割をもってゆったりとした生活ができるように職員は日々のケアに努めている。入居者はそれぞれが今やりたいこと、自分が役立つことなどを職員と共にしたり、ソファーに腰かけ新聞やテレビなどを見てゆったりと寛いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を毎週朝礼で読み上げ、各フロアに掲示して全職員に意識付けしています。	法人の理念「緑の中で家庭的な生活」を目に付きやすい事務所の玄関やユニットの壁に掲示している。全ユニットが集まる朝礼や毎月の部会で唱和し、理念に沿って職員が共通理解を深め、ケアに繋げるように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭、運動会等いろいろな地域の行事に入居者様と共に参加させて頂いております。	町内会から地域の情報を入手して、文化祭に作品を出展したり、行事や催しに参加している。ボランティアによる演奏や踊り、保育園の夕涼み会、小学校の運動会など地域の人と交流を楽しんでいる。日常の買い物を通して挨拶などを交わし交流を図っている。	地域の情報収集や協力体制の拡張に足踏み状態が感じられる。ボランティアの受け入れだけではなく、施設のPRや情報提供、開放事業など地域へ向けた新たなアプローチを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で利用者様の状況を報告して認知症の理解に繋がるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に、ご家族様、地域包括の方、地域の方々に出席して頂き、活動報告をさせて頂き意見を頂き、サービスの向上に努めています。	家族や自治会長、民生委員、行政、職員の参加を得て、2か月に1回開催されている。事業所の行事報告、研修報告、地域との情報交換などが行われている。提案や意見は記録されカンファレンスで協議し、運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には運営推進会議の報告や、その他の報告にて実情を伝え把握して頂き、又アドバイスを受ける等の協力関係を築くようにしています。	推進会議の報告や代行申請、更新手続きの折に、市役所に出向き行政担当者に指導や助言を得るなど、機会あるごとにサービスの内容を伝え、協力関係を深めるようにしている。また、市主催の研修会に積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア内は自由に動いて頂けるように、家庭の延長としてのんびり安心安全に心がけて、生活して頂けるように努めています。	入居者には常に親しみを持った自然な声かけや話し方、個々に合った接し方に務めている。身体拘束についての研修や事例検討を行い意識を高め、スピーチロックや束縛感のない環境を整えケアに努めている。安全性に配慮しユニットの出入口や風呂場などを施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	AA課程で職員全員が勉強して話し合い、虐待が見過ごされる事のないよう注意しています。また高齢者虐待防止マニュアルを設置しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている方が入居され実際に関わりを持ちはじめた所です。他職員と共に情報交換し学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等は、管理者が重要事項を説明し、了承を得た上で契約しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ご家族様へは利用者様の状況、状態報告等を密にしています。その際には要望や意見等を頂くようにしています。	入居者からは日常の会話やケアの中で把握している。家族からは面会や行事等の時に意見や要望を聞き、運営に反映させている。家族には運営推進会議内容の情報を提供している。	より多くの意見を収集しケアに反映できるように意見箱の設置や、写真やコメントを載せたホーム便りなど書面にて積極的に提供し、家族へ安心を届ける工夫が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回実施されている部会で、各ユニットでいろいろと意見や提案を出し、情報共有しています。	日常の業務の中や個別に意見をきいたり、月1回の会議で提案や要望を聞き、話し合いをして運営に反映させている。	収集した情報を開示したり共有する機会を多く設け、職員の共通理解をより図り、ケアに活かしていくことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与時には職員個々に自己評価と管理者評価、及び勤務状況の評価を行い賞与に繋がっています。また、給与の改善も行われています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修へ参加し、意見交換しスキルアップに努めています。職員一人ひとりに合った目標設定やアドバイスをを行い、働きやすい職場作りをしています。施設外の交換研修があると良いと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一年に二回他施設の職員と一緒に研修に参加し、意見交換し交流を深めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い、利用者様の不安な思いを理解し、要望に対応できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望等を十分聞き、不安を解消できるようなサービスを提供する事で、安心して満足していただける様な良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様と利用者様の意向をしっかりと把握し、安心して利用できるよう出来る限りの対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ利用者様が、毎日穏やかに過ごせるように常にあるがままの受け入れる態度、それぞれの気持ちに寄り添うようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも出来る限りいろいろな事に協力して頂き、職員と家族様と共にご本人を支える関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が面会に訪れた時は、ゆっくりと過ごして頂ける場所を提供しています。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人、場所を把握し、ケアに活かせる様に努めている。家族と一緒に外食やお墓参りなど馴染みの場所へ出かけている。野菜作り、趣味の絵画、刺し子等の手芸、調理など培った経験を活かすようにして、これまでの経験や馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が楽しく日々過ごす事ができるように、席の配置を考慮したり、季節ごとに行事を企画し皆様で楽しんで頂けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、利用者様や家族様から相談があった際には施設での情報の提供を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議では利用者様の思いや意向を確認し、それぞれの利用者様に合わせた支援に努めています。	傾聴の姿勢を基本として、日常の入居者との関わりの中で、会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったりしている。朝礼や必要に応じて職員間で情報交換してケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の入居前の生活歴や生活環境を利用者様本人、家族様やケアマネージャーから詳しく伺い、その方にとってより良い暮らし方が出来るように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの一日の過ごし方を、一人ひとり把握しその方に合った過ごし方が送れるように支援するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様がより良い暮らしをしていく為に、本人様や家族様、必要な関係者様と話し合いをしています。利用者様の状態に応じて話し合いを持ち、その時に合ったサービス計画を作成し支援に努めています。	本人や家族が参加して1年に1度、介護計画の見直しがされている。担当制でケアをしているが、どの職員も入居者の状況を把握し、同じようなケアが出来るようにしている。また、状態、状況の変化に応じて随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や詳細にて記録を残し、職員全員が把握できよように送りノート等を活用し情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス計画書は利用者様やご家族様の要望に沿って作成し、それに基づきサービスを提供しています。その方の状況に変化が見られた際にはその都度サービスの見直しを行いその方に合った支援が出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の資源についての情報は頂いていますが、活用はまだまだです。今後その情報に基づき新しい交流をもち安全に暮らしていけるように繋げていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は利用者様、家族様にお任せしていますが、お困りには往診可能な医療機関の紹介や近隣の医療機関の確認等の協力をしています。	入所時にかかりつけ医、協力医の希望を聞いて選んで頂いている。内科の受診は月に2度、主治医による診療を受けている。看護師が常駐しているので、日々の健康管理や急変時の対処について、医師と連携をしながら適切なケアが受けられるようにしている。受診に関わる情報や薬の取り扱いについては職員間で確認しながらケアにつなげるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録、詳細記録、申し送りノートにて看護師に情報を伝え相談し、利用者様の看護や受診を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入退院をされる際に、病院関係者と情報交換し、関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時や終末期には、早期段階から利用者様やご家族様へ報告し話し合いをしながら説明し、支援に取り組んでいます。	重度化した場合や終末期に向けた方針については、入居時に家族に説明をして同意を得ている。入居者の状況にあわせて、その都度、併設事業所に繋げるなどの具体的な支援等を話し合っている。看取りの支援の必要性を感じ取っており、知識や方法などを高めるために研修に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時など、応急手当や初期対応は全て職員が把握しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害時は、その事にふまえて、日々の避難訓練を行い、運営推進会議の際には地域との協力体制を築いています。	年2回昼、夜間の火災を想定した訓練を行っている。防火設備業者の立会いの下に訓練を実施し、講評も得ているが、消防署立ち会いの訓練は実施していない。運営推進会議等で地域の人たちとの協力体制は整っている。	消防署の協力を得て、消防署立ち会いのもとに訓練を実施し、避難経路や安全確保などについて指導や助言を頂き、安全性の高い訓練をするように願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方である事を常に意識して対応しています。入浴時や排泄時には恥ずかしくないように注意して介助しています。	プライバシー確保や気持ちを損ねないような声かけに努め、その人の良さを知るように心がけている。職員間では、日々のケアや申し送りの中で相互注意をし、入居者の人格や誇りを損なわないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望、訴えを傾聴し、自己決定できるような声掛けに心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭の延長なので、一日のスケジュールもあるがその日の体調や気分に合わせて生活できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こちら側が決めつけず、一人ひとりの方の意思を確認しながら見守りしている。特に外出時等には普段と変化あるオシャレができるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせ、下準備の手伝い、盛付等を当番表にそって一緒に行っています。	業者委託から、季節に合った食材が届けられている。入居者の保有能力に合わせ、調理の手伝いや片付けなどを行っている。職員の見守りの中で、入居者は会話をしながら楽しく食事をしている。赤飯、サンドイッチなどお楽しみメニューや外食レクなども取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食チェックし、一人ひとり把握できるようにしている。外部業者のメニューでカロリー計算されており、栄養バランスを考えた献立になっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア介助しています。ご自分で出来る方、介助が必要な方と、その方に合った声掛けや支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様 個々の排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行っています。一人で行かれる方には行動を察して、さりげない見守りを心掛けています。	排泄チェック表を基にそれぞれの排泄パターンを把握し、座位で排泄できるような支援に取り組んでいる。一人ひとりに寄り添い、素振りを見ながら誘導するなどきめ細かなケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに、出来る限り自然排便ができるように、体操や歩行運動散歩等に誘い、又食事面では食物繊維の多い食材を取り入れる等、工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の意志を優先し、無理強いする事なく、週3~4回の入浴をして頂いています。不定期で温泉を運んで頂いたり、季節により、菖蒲湯等も用意し楽しく入浴して頂けるよう支援しています。	二日に一度、午後の時間帯で入浴し、時間や入浴介助は一人ひとりに合わせて対応している。入浴を拒む方は声かけなどを工夫して気持ちを和ませ入浴を促したり、時間を変えたりしている。館山寺から温泉を運び温泉気分を味わったり、菖蒲湯、ゆず湯なども楽しみのひとつとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを尊重し、ストレスなく過ごせるようにしています。寝具の清潔保持に心掛け安眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に薬剤情報をファイルに収め、全職員が一目で分かるようにしてあり、薬の変更があった場合にも申送りを徹底し、把握できるようになっています。服薬は飲み込むまで確認し服薬記録にも残しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	当番表を作り、掃除、洗濯、食事作り等を手伝って頂き、張り合いを持って頂いています。毎月1~2回お楽しみ食事会を開き皆様に料理を作り、囲んで召し上がって頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望を聞き、外食へ出掛けたり、喫茶店でのんびり過ごして頂いています。又、季節に応じて初詣や弁当持参で花見へ出かけたり、外出支援を多く取り入れています。	天候の良い日には職員と一緒に、隣接するケアセンター敷地内の散歩を楽しんでいる。季節ごとの花見、食材やおやつの買い物、外食も楽しみとなっている。季節の野菜を育て収穫をしたり、ゴミ当番での仕事も楽しみになっている。家族と一緒に外食やお墓参りにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食や必要な物があれば、職員同伴で買い物に出掛け、使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があれば、いつでも電話がかけられるようにしています。手紙のやりとりも可能です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、壁画や掲示物を変え季節感をだし、行事の写真や入居者様の作品を飾り、リラックスできる空間作りを行っています。また、庭では季節の野菜を作り、水やりや収穫を楽しまれ、家庭的な雰囲気作りを工夫しています。	食堂兼居間は、ワンフロアの共用スペースとなっており、入居者の動きや気配がよく見渡せるようになっている。安全面に配慮し廊下には何も置かず、開放感と清潔感が感じられる。数多くの季節の作品や行事の写真が飾られている。ユニットごとに居間のソファの配置が工夫された中で、ゆっくり腰を掛けテレビを見たり、会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、ソファが置かれ、気の合う方とゆっくり過ごせるようにしています。庭、玄関ホールにも椅子やベンチを設置し、使用できるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を使用し、自宅に居るような雰囲気作りをしています。清潔感のある居室を維持し、危険な物は撤去させて頂き、安全で居心地の良く過ごして頂けるよう配慮しています。	自宅で使い慣れたものを持ち込んで安心できるスペースを確保している。また、本人や家族が希望する小物や写真を飾ったり、仏壇を置かれている入居者もあり、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活導線には、障害物等を置かず安全に移動できるように配慮している。居室入口には写真を飾り、部屋がわかるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372000980		
法人名	医療法人社団誠淳会		
事業所名	グループホーム青葉の家(2号館)		
所在地	豊橋市嵩山町字松田55番地		
自己評価作成日	平成28年8月17日	評価結果市町村受理日	平成28年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=2372000980-00&PrefCd=23&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成28年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みどりの中で家庭的な生活」を理念に自宅でもなく大規模の施設や病院でもない家庭的な環境の中で、ゆったりとした生活、そしてなんらかの役割を持ちながら楽しく暮らしていける「第2の住まい」を目指しています。
 自然に囲まれ恵まれた環境の中で四季を感じて頂けるよう季節の行事に力を入れて取り組んでいます。また地域の方とコミュニケーションが図れるように小学校や保育園との行事に参加し地域との繋がりを大切にしています。
 家庭的な雰囲気の中で活気のある生活を安心安全に過ごして頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本坂峠のトンネルを越えると県境で、トンネルの入り口が望まれる緑に囲まれた静かな山間に、3階建ての事業所が位置している。法人のケアセンターが敷地内にあり、小川のせせらぎや四季折々の草木を愛で、鳥の声を聴きながら散歩を楽しめる環境に恵まれている。小規模な保育園や小中学校が近くにあり、運動会や夕涼み会などの行事を通して、この地域ならではのほのぼのとした交流が続いている。「緑の中で家庭的な生活」を理念とし、家庭的な雰囲気の中で、自分の役割をもってゆったりとした生活ができるように職員は日々のケアに努めている。入居者はそれぞれが今やりたいこと、自分が役立つことなどを職員と共に行ったり、ソファーに腰かけ新聞やテレビなどを見てゆったりと寛いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の思いを傾聴しながら、家庭的雰囲気の中で第2の住まいとして過ごして頂けるように、職員一同理念に基づいて実践に繋がっています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園、小学校での行事等に積極的に参加したり、定期的なボランティアの方々とのふれあい等にて日常的に交流をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で家族様をはじめ多くの方々に参加して頂き、実践している事や利用者様の発言等で理解して頂けるよう地域の方に向けて発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催される中で、利用者様の日常生活や取り組んでいる事また問題点等、現在の状況を報告し意見を頂きサービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは定期的に連絡を取り、施設の現状等を報告し見て頂きながら協力関係を築けように取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で「身体拘束の対象となる具体的な行為」について学び、如何なる時にも拘束をしない介護に努めるよう取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修により高齢者の虐待について学び、虐待の恐れがある時には見過ごしてしまわないように注意しながら支援しています。高齢者虐待防止マニュアルが設置されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度について学び、理解出来るまで話し合いを行い、必要とする方へアドバイスが出来るように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面と共に説明を行い、十分理解され納得後、署名捺印して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、家族様の要望は真摯に受け止め、管理者を含め職員で話し合い、運営に繋げるように努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回の朝礼や月1回の部会にて、各館の問題点や提案及び意見を聞き運営に反映させています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の評価を基に人事考査をし各手当や就業規則の見直しをしながら職員一人ひとりがやりがいをもちながら務められるような職場環境を作っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握し、内部での研修や外部での研修の受講によりケアの向上を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を定期的に図り活発な意見交換をする事で問題点の解決や良いケア方法を学びサービスの向上に活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してからの様子を見ながら入居する前の生活状況や家族との関係を把握して、本人の要望や不安等を傾聴しながら信頼関係を築けるように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族関係や生活状況等を把握し、家族様との面談の場を設け話し合い出来る限り要望に応えられるようなケアを導入し、家族様との関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様と家族様が必要とする支援を取り入れ状況の変化と共にサービス内容を考え支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時間を過ごす中で利用者様を尊敬しながら共に出来る事を共有し、毎日笑顔で過ごして頂けるように声掛けをし信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に利用者様の状況や要望等を報告し相談しながら家族様と共に利用者様を支えていけるような関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様との会話の中で御友人の名前や馴染みの場所等聞き、面会やドライブ等にて関係が途切れないよう努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に楽しく行えるレクリエーションの提供や、トラブルが起きないように声掛けしながらより良き関係を築いていくよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居してからも必要に応じて利用者様家族様の経過をフォローし、相談や支援するように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の疎通が困難な方もいますが、利用者様が望むことを聴きながらその人らしい暮らしが出来るように職員間で話し合い、ケアに繋げています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者様や家族様から今までの生活史や環境、これまでのサービス利用経過について十分な聞き込みを行なっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態や力等把握し、維持出来るように適切な記録を行い、申し送り等にて職員全員で情報の共有が出来るよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議には利用者様、家族様、介護支援専門員、現場の職員等活発な意見を出し合いその意見が反映するサービス計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践、結果、気づきなど介護詳細記録を基に職員間で伝達共有し、サービス計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族様のその時々生まれるニーズに対応できるようにその都度カンファレンスを開催し、サービスの見直しをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事等へ参加する事を通じて地域にどのような資源が存在するのか確認し、交流を持ちながら豊かな暮らしができる支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の身体的状況等を家族様を通じてかかりつけ医師に細かく報告します。症状によって速やかに受診するよう早期発見に努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はバイタル測定、顔色、体調の変化等の早期発見に努めて記録に残していません。急変時には看護師に報告し利用者様が受診出来るように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に医療関係者との信頼関係を築き、入院された時には安心して治療が出来るように、また早期退院が出来るように医療関係と連携を取りながら情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時には家族様と話し合いを行い、施設でできる事を十分に説明し方針を共有して頂き、適切な施設や病院の情報を提供出来るように支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルの確認や適切な行動が出来るように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的な防災対策を実施し利用者様が安全に避難が出来る方法を職員間で話し合い安全確保に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目上の方という意識を持ち、利用者様の人権を尊重しプライドを損ねない対応や、入浴時、更衣時等周辺の様子を配慮しプライバシーの保護に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の様子を観察しながら、本人の思いや希望が出せるように声掛けをし、自己決定ができるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様主体のケアを心掛け、職員都合のケアをしないように職員間で注意しながら一人ひとりのペースを大切に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴の更衣時には、利用者様に衣服の選択して頂き、整容時に身だしなみが整えられるように配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と共に食事の準備をしたり、好きなものを献立を見ながら美味しくできるようにアドバイスを出し合い、食事が楽しくなるように支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部業者のメニューにてバランスのとれた食事を提供していますが、一人ひとりの状態に応じた食事形態を考慮しています。水分確保が出来ない方には飲むことが出来る物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に出来る方々には声かけ見守り、出来ない方には付き添い介助し、口腔内が常に清潔であるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間や習慣を把握し繰り返し、排泄誘導を行う事でトイレでの排泄や排泄の自立が出来るように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かす運動を取り入れたり、野菜中心の食事を提供し、水分確保をしながら便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る範囲で、一人ひとりがゆっくりと楽しめる入浴をして頂けるような環境作りに努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に合わせてゆっくりと休憩をしたり、温度や照明を考慮し気持ちよく眠れるような支援を心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤情報にて薬の目的、用法用量等を把握理解し、症状の変化の観察や薬変更時の状態観察など記録し適切な服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で役割分担にて家事に取り組んだり、その方の希望に沿った楽しみごとを個別に支援し気分転換ができるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調に合わせて散歩や買い物等に出掛けたり、長距離戸外には計画を立てその時の季節を感じて頂けるような場所や、入居前の馴染みの場所や習慣に合わせた(喫茶店)等に出かけるような支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時には利用者様が自由に希望の物が選べるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望があれば家族との電話の取り継ぎを行い、手紙やはがきのが出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には季節に合わせた壁画や利用者様の作品を飾り、四季を感じ心地よく過ごせるよう工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫し、会話を楽しんだり自由にテレビ観賞出来る空間を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の中には馴染みのある家具や置物等を取り入れ、安心して心地よく生活出来るような工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心して過ごして頂けるように、トイレや居室等の場所が分かるように表示をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372000980		
法人名	医療法人社団誠淳会		
事業所名	グループホーム青葉の家(3号館)		
所在地	豊橋市嵩山町字松田55番地		
自己評価作成日	平成28年8月17日	評価結果市町村受理日	平成28年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2372000980-00&PrefCd=23&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成28年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みどりの中で家庭的な生活」を理念に自宅でもなく大規模の施設や病院でもない家庭的な環境の中で、ゆったりとした生活、そしてなんらかの役割を持ちながら楽しく暮らしていける「第2の住まい」を目指しています。
 自然に囲まれ恵まれた環境の中で四季を感じて頂けるよう季節の行事に力を入れて取り組んでいます。また地域の方とコミュニケーションが図れるように小学校や保育園との行事に参加し地域との繋がりを大切にしています。
 家庭的な雰囲気の中で活気のある生活を安心安全に過ごして頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本坂峠のトンネルを越えると県境で、トンネルの入り口が望まれる緑に囲まれた静かな山間に、3階建ての事業所が位置している。法人のケアセンターが敷地内にあり、小川のせせらぎや四季折々の草木を愛で、鳥の声を聴きながら散歩を楽しめる環境に恵まれている。小規模な保育園や小中学校が近くにあり、運動会や夕涼み会などの行事を通して、この地域ならではのほのぼのとした交流が続いている。「緑の中で家庭的な生活」を理念とし、家庭的な雰囲気の中で、自分の役割をもってゆったりとした生活ができるように職員は日々のケアに努めている。入居者はそれぞれが今やりたいこと、自分が役立つことなどを職員と共にしたり、ソファーに腰かけ新聞やテレビなどを見てゆったりと寛いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週の朝礼と月一回の部会で事業所理念の再確認を行い、話し合いで共有を図ると共に意識を高め実践に繋げています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの観賞会や年間行事の参加で交流を図り、繋がりを大切にしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流する機会を持つ中で、認知症の理解や支援方法を地域の人々に向けて発信し活かして頂けるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催にて利用者様も参加する中で日常生活の様子や状況を報告し、話し合いや意見交換を行い今後のサービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告やその他届け出の際には、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎週の朝礼や又講習会の中で、サービス指基準における禁止の対象となる具体的な行為を職員一人ひとりが理解し身体拘束をしないケアに努めています。		
7		○虐待の防止の徹底	毎週の朝礼や又講習会の中で虐待防止関		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	連法を学ぶことや話し合いの機会を持ち、利用者様に対して苦痛を与えないケアを行い虐待を見過ごさないように努めています。高齢者虐待防止マニュアルを設置しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会で制度の理解を学ぶ機会を持ち活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行うと共に、不安や疑問点等の意見を尋ね理解と納得を図れるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	交流する機会を設け意見や要望の交換を今後の運営に反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週の朝礼と月一回の部会で職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に基づき職員一人ひとりが向上心を持って働けるよう給与改定も含め職場環境を整えるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を受ける機会を作り、スキルアップしていけるよう努めています。資格手当の充実により資格取得を奨励しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講習会に出席することで同業者との交流する機会を持ち、情報交換でサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様やケアマネージャー等の情報を基に利用者様のお話をじっくりと伺い、一つ一つの言葉や思いを受け止め信頼関係を持てるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様と十分な話し合いを持ち要望に沿えるような支援を提供し、信頼関係を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様家族様の生活歴を聞き取りその上で心のケアを含む内容を考慮しサービスの提供をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時間を共有する中で、共に行える作業を実践しながら信頼関係が持てる工夫や、利用者様を敬い尊重し常に笑顔と丁寧な声掛けを心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の立場に立った支援を心がけ、介護記録介護詳細を読んで頂く事で家族様との信頼関係が築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様と家族様の協力を得ながら入居以前の大切な事や馴染みの場所や人の話を十分伺い、日常の会話の中にその事を話題にしたり、外出時に近くに行った際には思い出話をする等関係が途切れない支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話やレクリエーション食事時等、職員が間に入り共通の話題を提供するなどの支援を行い、より良い関わり合いが持てるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり方には面会に伺ったり、他の施設に移られた方の様子は電話で伺ったりしています。また、家族様から当施設での情報が必要と言われれば提供し相談に乗るように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り一人ひとりの要望に添うことができるよう努めています。また、困難な事柄であればそれに変わるもので満足して頂けるよう配慮しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様からの聞き取りが難しい場合には入居前の情報を家族様や担当ケアマネジャーより聞き取り把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり心身状態が違うように、希望される過ごし方、興味のもてる事にも違いがあります。観察と記録にてその方の状態を把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様ご家族様のみならずかかりつけ医に意見を伺ったり、職員が意見を出し合ったりして本人様に適したサービスが提供すべく介護計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録や介護詳細記録に記入し、職員間で情報を共有しています。定期的にモニタリングを実施し介護計画の見直し変更を努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況の変化に対応できるようにその都度利用者様家族様職員で話し合いを行い、本人様に適したサービスを実践できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加を通じ地域の方々との交流を持ち相互理解を深め、職員が地域の資源について理解し、利用者様に活用できるよう働きかけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様家族様の希望を尊重し信頼できる医療機関との関係を良好に保ち、適切な医療が受けれるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定や詳細記録等から情報を密にし、適切な受診や看護を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎日のバイタル測定や様子観察の情報は主治医に報告し、医療機関にはサマリーを提供し早期に退院できるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態にもよりますが本人様は理解が困難な場合が多々あります。家族様との話し合いを行い主治医の指示を仰ぎ、利用者様家族様の希望に沿った支援ができるように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に話し合いを行い、緊急事態が発生した際には対応マニュアルで適切な行動がとれるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を基に職員間で話し合い、安全確保に努めています。また運営推進会議の際には地域の方に施設の現状を報告し、協力が得られるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの状態、性格、生活歴等の把握と日常の記録によりその方を十分理解し、尊敬すべき先輩である事を自覚して対応するように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話に共感する事で、その方の希望や思いの聞き取りを行ったり、会話を多く持ち自己決定ができるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の日常を把握する事で、一人ひとりのペースを理解しその人らしく過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が決定できる方には決定して頂き、困難な方は季節に合った服装を提供し、鏡を見てその人らしい身だしなみやおしゃれを楽しめるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	刻みの大きさや粥の提供により利用者様に合った食事形態で提供しています。音楽を聴きながらゆっくりと食事ができる空間を演出し楽しく食事ができるように努めています。準備や片づけは当番表にそって行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部業者のメニューにより、栄養カロリー等考慮されています。食事と水分補給を通して1日の水分量が確保できるように一人ひとりの状態に応じた対応に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔状態やその人の力に応じて口腔内が清潔保持できるよう、歯磨きうがい等の口腔ケアを提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握し、自発的に排泄が困難な方は時間表を取り入れ行動の観察と変化に気を配り声掛け誘導にて自立にむけた支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行運動を取り入れるたり、食事は野菜や食物繊維を含んだものも多く、又十分な水分摂取で予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのペースやタイミングに合わせて楽しくリラックスして頂ける環境作りを行っています。拒否がある時は声掛けを工夫し無理強いすることなく日を改め本人様の思いを尊重しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時の体調に合わせて安眠と休息ができるよう、居室内の温度の調節や安全に休めるように転倒防止センサーを活用して支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で個々利用者様の薬剤情報にて内容の理解と把握をし、症状に変化があった時は記録と申し送り情報の共有に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	当番表にて役割を持って頂きコミュニケーションをとる中で、楽しみごとや得意分野を見出し張り合いと喜びのある日々を過ごせるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞いて計画を立てたり、一人ひとりの好むことを会話の中で把握し望まれている外出ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の時は利用者様が希望の物を選べるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望されれば、電話手紙のやり取りができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節に合わせた壁画作品を掲示し四季を感じれるように工夫しています。また、トイレには大きく表示がされています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫して居心地の良い場所で、会話やテレビ観賞ができるよう努めています。食事の際には気の合った方と食事ができるように席を考慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全な配置に机やタンスを設置し、思い出の写真や馴染みの物はご本人様のセンスで飾って頂き、居心地よく過ごせるような工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心して過ごして頂くために一人ひとり居室出入口に大きな名前表示や写真を貼ってわかるようにしています。		